

## 今ではあり得ない「かぐや姫」ですが

今日は一年生をイメージして書きますね。もちろん、先輩たちも読んでもいいですよ。いや、読んでほしいな。

皆さんは「かぐや姫」は知っていますよね。正式な名前は「竹取物語」です。今から千百年以上前、平安時代に作られたとされています。日本に残る最も古い物語です。

平安時代はその名前の通り、**平和で安全な世**の中でした。貴族と呼ばれる人たちが、大きな屋敷に住み、きれいな衣装を着て暮らしていました。生活に余裕がある人たちは、心にも余裕が生まれます。夜空に浮かぶ月を見て、「月の世界に行ってみたいなあ」とか、きれいな女性を見て「付き合ってみたくないなあ」とか（教育的ではないと言われるかもしれませんが、事実だから許してね。）思う時代でした。折しも、ひらがなが発明され、文字を使って容易に書き記すことができるようになり、清少納言や紫式部のような女性がどんどん力を発揮するようになりました。百人一首を見ても、姫の絵札が多くなるのは平安時代ですよ。

そんな時代に生まれた「竹取物語」は、今ではあり得ない内容ですよ。竹取のおじいさんが、根元が光る竹の中から、約十センチの女の子を見つけます。その子は三ヶ月で一人前の女性となります。あまりの美しさに、言い寄ってくる男性たちのプロポーズを全て断り、月の世界に帰って行ってしまいます。

笑ってしまいますよね。でも、これは笑ってはいけないことなのです。つまり、平安時代は、あり得ない内容の話が生まれるような余裕のある時代であったということです。逆に言うと、余裕がある時代だったからこそ、「竹取物語」は生まれたのです。戦いや飢饉があったら、こういう話は到底生まれてきません。まさに、「古典は時代を映す鏡」と言えますよね。

それともう一つ。人間は余裕があると欲を出します。かぐや姫をゲットしようと、迫ってくる男性が五人。しかし、彼らの欲の見苦しいこと！見苦しいこと！その中でも最も見苦しいのが「くらもちの皇子」です。よくそこまでうそがつけるなあとあきれてしまいます。

知りたくなかった人は真新しい国語の教科書を見てみてね。今の言葉にも訳してあるからね。

（四月三十日 記）

